

平成29年度 学校自己評価表 (計画段階・実施段階)

福岡県立ありあけ新世高等学校長 印

学校番号

73

学校運営計画 (4月)

学校運営方針		評価			
<p>校訓 「自律・自励・飛躍」 校是 「新世生よ、人生のプロデューサーたれ！」 学校ビジョン及び生徒行動指針を具現化することによって、福岡県が目指す「高をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心を持つ、逞しい生徒」更には、総合学科高校が目指す「主体的に考え行動し、調べる力、聞く力、まとめる力、発表する力などを身に付けた生徒」を育成し、地域から愛され、信頼され、誇りとされる日本一の総合学科高校をつくる。</p>		(3月)			
昨年度の成果と課題		具体的目標			
<p>○成果 1 地域貢献活動の推進と学校行事の充実 2 本校に対する地域社会からの評価の向上</p> <p>○課題 1 第一希望進路実現のための基礎学力の向上 2 生徒の主体性、チャレンジ精神の育成 3 職員の実践的指導力の更なる向上 4 総合学科の特色や本校の魅力についての広報活動の充実と工夫 5 学級減に伴うカリキュラムマネジメントの充実</p>	1 学力向上による生徒の第1希望進路の実現	<p>(1)教師の授業改善や指導力向上に資する外部研修会へ年間最低1回は参加するとともに、A1型授業を推進する。 (2)日常の教科指導で、課題を見直し自ら解決させる指導を行い、家庭学習習慣の定着につなげる。 (3)進学強化クラスの組織的・系統的指導を確立させ、目標大学への合格率90%を目指す。 (4)資格取得を促すことで、本校独自の商業科等を活かした多様な受験形態に挑戦させ、合格実績につなげる。 (5)小論文・面接指導を充実させ、公務員合格者数を伸ばす(1次35名、2次15名)。新規の企業を関係するとともに、人気就職先(金融系等)への合格者を増加させる。</p>	A		
	2 キャリア教育による主体性(自ら考え行動する)のある生徒の育成	<p>(1)年次ごとに生徒の「成長度」を示す指標を作成し、意欲喚起につなげる。 (2)「産社・協学」の指導内容の共通理解を図り、1年次で課題を見直し、2年次で課題を研究・深化させ、3年次で進路に結びつけるという、3年間を通した系統的指導を実施する。 (3)年間2回の職員研修により職員のガイダンス力向上を図り、面接による生徒理解・指導を充実させる。 (4)学校や地域の諸活動に積極的な参加を促進するとともに、企画・運営力のあるリーダーを育成する。</p>			
	3 体験的な活動によるチャレンジ精神にあふれた生徒の育成	<p>(1)「新世チャレンジ」により、年間で取り組む具体的な目標を全生徒に定めて、チャレンジ精神の啓発を図る。 (2)ボランティア、地域貢献活動を更に推進し、地域の課題を把握して生徒自身にできることを考えさせるとともに、それをまた地域に還元する機会を創出する。 (3)社会や学校でのマナーの在り方を明確にし、職員間の共通理解のもと指導することで、マナーを実践できる生徒を育成する。 (4)顧問の適正配置と協働により部活動及び各種委員会を活性化させる。</p>			
	4 校内組織(各種委員会含む)及び指導体制の改善	<p>(1)職員全員が同じスタンスで、主体的な教育活動及び生徒指導を行えるよう、運営委員会や職員会議、月1回の分掌会等を通じて共通理解を図り、実践する。 (2)情報端末を活用し、全職員・アンケート回答の見え方を推進することで指導の共有化を図る。 (3)生徒の多様な進路に応じて、的確な進路指導ができるような体制作りを進路指導部が中心となり推進する。</p>			
	5 広報活動の充実及びPTA・同窓会・地域社会との連携強化	<p>(1)PTA・同窓会・地域社会との連携状況を図式化し、学校行事の支援及び広報活動につなげる。 (2)キャッチコピーやマスコットキャラクターの作成、ホームページの随時更新等を含めた積極的広報活動を行う。 (3)創立15周年を節目とし、カリキュラムの改革を含めた総合学科のあり方を再検討し、学校の特色化、活性化を図る。</p>			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題	
確かな学力の育成	学校規模の縮小に対応したカリキュラム・マネジメントを推進する。	教育課程検討委員会を中心に、5月までに次年度以降の教育課程を整備する。 中長期的な本校のグランドデザインについて、8月までに職員研修会を実施する。 学校間連携の推進について、最晩年2回の職員研修会を通して共通理解を深める。	A A A	A	<p>1 本年度は全職員によるアクティブ・ラーニングの授業研究や職員研修会等を行い、職員間の共通理解は得ることはできた。次年度から主体的・対話的で深い学びに基づいた授業実践を始めるにあたり、職員が共通認識のもと、授業改善を推進するとともに、新たな学びの実践・検証を積み、本校の教育目標を実現していきたい。また、教職員同士がお互いに学び姿勢を大切にし、深い学びの質を確保しながら、本校独自のアクティブ・ラーニングを創り上げていく必要がある。</p> <p>2 進学強化クラスについては、クラス編成のあり方や指導体制を見直してきた。次年度は、現実的な対応を取りながらも着実に進学実績が出せるよう、年次と各分掌の理解と協力を得ながら指導を充実させる必要がある。</p>
	課題発見・解決型の教科指導を通し、家庭学習習慣の定着につなげる。	アクティブ・ラーニングの指導方法について、各教科での実践を推進する。 観点別評価への段階的移行を通して、生徒の主体的な学びの姿勢を育成する。 各年次との連携を密にして学習課題の工夫や家庭学習時間調査の活用により、家庭学習の増加につながる教科指導を推進する。	A A B		
	進学強化クラスの組織的・系統的指導を通し、目標大学への合格を図る。	進学強化クラス委員会を年5回実施し、他分掌や各教科との連携を深める。 「進学強化クラス合同集会」を年3回実施し、生徒の意欲向上を図る。 進学強化を意欲した学習指導や進路指導を推進し、主体的に学ぶ態度を育成する。	B B B		
	教師の教科指導力やガイダンス力向上のための研修を推進する。	10T研修を8月までに実施し、電子黒板やデジタル教科書の活用を推進する。 観点別評価についての職員研修会を年3回実施し、指導と評価の一体化を推進する。 教科指導方法やガイダンスについての実践的職員研修会を年3回実施する。	A A A		
	「新世チャレンジ2017」の充実を図る。	課題設定にあたり、具体的な目標を定めるとともに、できるだけ数値化させる。 三者面談等での中間評価を充実させる。 最終的な結果を、文書でまとめ冊化する。	A B A		
生徒指導	主体的に自ら行動する能力の育成	年間5回のボランティアの中で、1回は必ず自ら計画し実行させる。 生徒会活動、特に委員会の主体的活動を推進する為、企画を2つ以上計画させる。 場に応じたマナーや、対応ができる態度の育成を目的に、挨拶運動を年間3回実施する。	A A B	A	<p>1 主体的に自ら行動する態度を養い、失敗を恐れず体験することで成長する生徒の育成を目標に諸活動に取り組んだ。 2 ボランティア活動では、生徒の意欲も高く、これまでの取組が定着してきた。次年度はさらに充実させていきたい。 3 年間目標を設定し活動する「新世チャレンジ」では、意欲が高い生徒は効果が高かった。年間を通して、教師の支援が効果を上げる要素となる。アンケート調査を行い次年度さらに充実させていきたい。 4 創立15周年を節目に次年度から夏服がリニューアルする。今までの良いイメージを受け継ぎ、進歩する新世の象徴になるように、着こなし等の指導を充実させる。 5 次年度は、1クラス減となり生徒数が減少する。部活動の存続や指導者の問題、その他の活動での技術的な見直しが必要である。</p>
	部活動の活性化	体験入部を7日間行い、最低3つの部を体験させる。 外部指導者の導入を積極的に行う。	A B		
	夏服のリニューアルと冬服のマイナーチェンジを行う。	新世の伝統を受け継ぎ、生徒・保護者・同窓生に受け入れられるような制服にする。(冬服) 変換心、厚着意欲等が生まれるような制服のデザインを考える。(夏服)	A A		
	安全教育、いじめ防止教育、交通安全教育を含む規範意識の醸成を図る。	外部からの講師を年間5回回聘し、講演会や実践指導を積極的に導入する。 ポスターを作成する等、生徒主体でいじめ防止のキャンペーン企画させる。 活動を通して、規範意識の醸成を図る。	A C A		
	進路に応じた指導体制を確立し、全ての生徒の第1希望進路の実現を目指す。	授業で培った学力を更に伸ばすために、進学強化クラス推進委員会と連携し、課外授業・土曜講座の指導を充実させる。具体的には、模擬試験の過去問や入試問題等を活用し、より高いレベルの問題に取り組ませる。 1年次生徒全員を漢検、英検の資格取得に70パーセント以上合格させ、目標を持って学習に取り組む姿勢を確立させる。また、2・3年次生徒に対しても、進路実現に有利に働くより難易度の高い資格(準2級、2級、1級)に積極的に挑戦させる。 模擬試分掌会を10月に実施し、指導の成果と課題を明確にする。11月、1月実施の模擬試験についても、結果発表後3週間以内に分析結果をまとめ学校全体で共有する。	A A B		
3年間のキャリア教育を通して志を立て、年次、教科と連携して進路実現に必要な確かな学力を高める。	年次と連携し、進路に関する体験活動を通して、継続的・計画的にキャリア教育を推進する。特に、外部で開催される各種ガイダンスへの生徒の主体的な参加を支援し、生徒の進路意識を高める。 2年次と連携し、インターンシップを通して生徒のキャリア意識を高める。 進路希望調査を年2回(ガイダンス連日の前)に実施し、進路実現に必要な科目選択を支援する。	B B A			
多様な進路に応じた進路ガイダンスを計画的に行い、生徒の進路意識を高める。	奨学金、入試問題の変更、各種最新の進路情報をタイムリーにキャリア教育部から発信する。 3年次の就職希望者の面談を4月から計画的に行い、7月からは面接指導を行い就職を支援する。 多様な入試形態に対応するために、進路の手引きや各種最新の資料を活用し、生徒の進路実現に向けた個別ガイダンスを行う。	A A A			

総合学科推進	キャリア教育を推進し、全教育活動を通して基礎的・汎用的能力の育成を図る。	4月にキャリア教育プランの共通理解を図り、全職員の意識を高める。	A	A	A	1 総合学科高校への理解を深める 職員・生徒による中学校訪問を計画的に実施し、中学校との信頼関係強化を図るとともに、学習塾にも案内等を配布する。また、学校説明会等を複数回実施し、本校への理解を深める。 2 効果的な広報活動の充実 ホームページの充実と紙ベースによる広報活動を工夫・改善し、学校の特色・活性化を図る。 3 職員の支援指導力の向上 キャリア教育を計画的・系統的に推進させるとともに、職員研修等により職員の支援指導力向上を図り、生徒理解・指導を充実させる。 4 総合学科発表会の充実 創立15周年の節目として、同窓会とも連携し、「30歳からのメッセージ」の発表会を実施し、本校のキャリア教育の成果を確固とした。次年度以降も同窓会と連携し、総合学科発表会の充実を図る。また、中学生・保護者の参加者を増やす実施方法を具体的に検討する。
		全教育活動に基礎的・汎用的能力の育成を意図した指導及び評価を導入する。	B			
		「産社・総学」の内容の検討を年次会で定期的に実施し、職員の意識と配置を高める。	A			
		1年次の産社では、10月の科目選択に結びつく指導及び評価方法を確立する。	A			
		2年次の課題研究では、全職員による教科の専門性を生かした指導を行う。	A			
中学生とその保護者に総合学科の特色を伝える取組を充実させる。	中学生とその保護者に総合学科の特色を伝える取組を充実させる。	3年次の総学では、これまでの実績に基づいた、系統的な指導態勢を確立する。	A	A	A	
		各年次における系統的指導の成果を最大限に、総合学科発表会を成功させる。	A			
		遠路指導課と連携し、「産社・総学」におけるキャリア教育を充実させる。	B			
		1期生が、30歳になるのを期に講演会等を計画し、15年間の成果を確認する。	A			
		生徒・職員による塾・中学校訪問を2回以上実施し、本校の特色を伝える。	A			
環境・美化への意識を持ち、自ら進んで活動できる生徒を育成する。	環境・美化への意識を持ち、自ら進んで活動できる生徒を育成する。	「美化コンクール」の内容を検討し、2回（前期1回、後期1回）実施する。	A	B	A	1 教育環境の整備 7クラス時代より生徒数・職員数共に40%減となっているため、担当区域が広範囲にわたっている。次年度はさらに1クラス減少するため、今より困難な状況が想像できる。 次年度は、今までの掃除のあり方は美化活動の低下を招く恐れがあり、生徒会活動やボランティア活動を活用し、区域別リチーフ掃除のあり方の根本から見直す必要があり、学校教育環境の整備に努めたい。 2 教育相談体制 教育相談委員会やカウンセリング室での相談、保護者への働きかけは定期的に行い、より一層の相談効果を上げてきた。 次年度は、生徒の心の健康増進をより支援するための手立てとして、より多くの関係職員と共通理解が必要である。さらに、教育相談委員会を中心に、年次を超えての授業担当者会を開き、生徒の支援体制をより充実させたい。 3 いじめアンケート等への対応 いじめアンケート、学校生活アンケートについては、迅速な対応ができた。アンケート内容やいじめの定義等の職員研修会の成果も考えられる。いじめの早期発見と未然防止に向けて継続的な取組強化を図り、安全で安心な学校づくりに努めたい。
		掃除の時間の見直しを環境美化委員会を活用し月数回行い、その場で指し直し、掃除の徹底を図る。	B			
		トイレのマナー向上やゴミマナーを徹底するために委員会活動を週1回実施を行う。	B			
		広範囲の掃除区域の見直しを行い、清掃環境を整える。	B			
		毎月1回、教育相談委員会を開催する。	A			
		週1回、教育相談委員会を持ち、情報交換及び生徒の共通認識を図る。	B			
		教育相談委員会から保護者へ相談の呼びかけを行う。	A			
		教育相談委員会の内容を受けて、職員全体の共通認識を図る手立てをとる。	B			
		各分掌との連携を密にし、課題のある生徒についての長期的な支援計画（ヒントシート）を作成する。	B			
		生徒指導課と連携して「学校生活アンケート」を年間3回、「いじめアンケート」を毎月実施し、集約・分析を行い、生徒の状況や変化を把握する。	A			
心身の健康への意識を高め、自ら健康管理ができる生徒を育成する。	心身の健康への意識を高め、自ら健康管理ができる生徒を育成する。	「学校生活アンケート」・「いじめアンケート」の結果を検討し、実施把握といじめの事前防止に努める。	A	A	A	
		専門・関係機関との連携を強化する。	A			
		生徒の状況を把握し、判断するために必要に応じて面談等を行う。	A			
		保健委員会が作成する「保健だより」を月1回発行する。	A			
		早期に心身の課題点を分析し、担任・年次との連携をとりながら、組織的に迅速に対応する。	B			
職員研修会の充実	職員研修会の充実	各分掌・委員会と連携し、本校の課題に沿った校内研修会の実施	A	A	A	1 今年度はアクティブラーニングや観点別評価等の授業改善に力を入れた。研修や他分掌との連携により職員研修会の充実を図り、校外研修への参加の推進も行った。しかし、その還元が学校誌のみで不十分な面があった。 次年度は、学校誌以外での還元の方法等を検討し、充実を図りたい。 2 今年度から授業アンケートも内容や実施方法を検討し、成果を上げた。 次年度は、その結果をもとに更なる授業改善を図ってきたい。 また、家庭学習時間調査とのタイアップも考慮したものに改善していきたい。 3 職員数減や学校行事等との関係から、公開授業週間と研究授業大会のあり方や実施時期・実施方法を根本から検討し、更なる充実を図りたい。 4 図書委員会活動は、図書委員長を中心に積極的に活動することができた。 次年度は新たな企画等を考え、更なる活性化を図りたい。
		内容・方法の検討と充実	A			
		校外での研修会への参加の推進とその還元（年間最低1回は参加）	B			
		公開授業週間（7月・10月）の2回実施	A			
		研究授業大会（10月）の実施	A			
		授業アンケートの実施と活用（6月・11月）	B			
		内容の検討と充実（事例としての研修会の充実）	B			
授業力向上のための授業改善	授業力向上のための授業改善	早期の着手（各事業が終わり次第原稿提出）と完成（3月20日までに完成）	B	B	A	
		3年間を見通した人権・同和教育特設授業の充実	B			
		職員の種類研修会への参加の推進	A			
人権を尊重した学校づくりの推進	人権を尊重した学校づくりの推進	「朝の10分閉読書」の推進と年間10冊以上の読書の推進	B	A	A	
		学習のための図書館環境の整備・増強	A			
		アクティブ・ラーニングを見据えた教科等との連携	B			
		図書委員会活動の活性化	A			
図書館教育の促進と読書指導の推進	図書館教育の促進と読書指導の推進	式典等における時刻について、関係分掌との連携を図る。	A	A	A	1 行事においては他分掌協力により円滑に運営することができた。PTAの行事においても、理事会で連絡調整が行われ予定通り実施できた。次年度の委員においては男性の委員を増やしたい。次年度のPTA総会については、実施時期、総会内容（講演等）を検討し、参加者を増やしていきたい。 2 同窓会では15周年総会を成功裏に実施できた。今後は、役員会の活性化を図り、総会参加者を増やし、充実した総会を実施したい。 3 学校HPは今年度大幅に改定し、より見やすいHPになり、改善を図ることができた。今後も適宜更新し、充実化を図るとともに、生徒募集に繋げる広報活動に努めたい。 4 各行事の記録は、他分掌の協力により残すことができた。今後、より充実化を図りたい。 5 学校案内、学校新聞、リーフレット等の作成にそのデータを活用することもできた。今後は質を高める。
		卒業式に関して定時刻との連絡調整を図る。	A			
		PTA行事を含めたスケジュール管理を行う。	A			
		PTA総会への保護者参加率30%を目指し、PTA役員との綿密な連携を図る。	B			
		同窓会参加者100名以上を目指し、同窓会役員との綿密な連携を図る。	B			
企画・広報	企画・広報	PTA・同窓会のHPの更新を行い、PTA・同窓会活動に対して保護者、同窓生への周知徹底を図る。	A	A	A	
		各行事についてマスコミ、市町村広報課に報道依頼をするときに撮影記録を残し、フォルダ整理を行い活用する。	B			
		記録データを活用し、本校の教育成果を効果的に伝えるため「新世だより」（年間3回以上）発行する。	A			
		報道活動については、最低年2回（前期・後期）、学校行事については随時のHP更新ができるように各HP担当者で連絡し更新する。	B			
			B			

1年次	第1希望進路実現を見据えた基礎学力を中心とした「確かな学力」の養成	家庭学習習慣を確立させるために各教科と連携を図り、導入期指導を強化する。	A	B	1 家庭学習習慣の確立においては、更なる創意工夫が必要である。次年度、各教科と連携を図り取組を強化し、積極的に資格取得を目指す。また、模試分析会の結果を職員で共有し、成績上位者の適切な進路指導を継続して行う。 2 自立と協働を学ぶ体験活動（宿泊体験）での「自分史作成」の取組や「産業社会と人間」の時間を中心に取り組んだライブプランの作成、総合学科発表会の成果を今後の学校生活に着実に生かしていきける指導に努めたい。 3 部活動においては入学当初の加入率は達成できたが、その後参加状況に変化がみられた。顧問の先生と連携し、適切な指導を行い、部活動の充実・発展に努めたい。 4 リーダーの育成は、継続的に行っていききたい。次年度は、年次集会での司会など、生徒会の生徒や部活動生を中心に計画的に指導していききたい。 5 年次会を中心に情報を共有し、業務の円滑化を図ったが、不十分な部分もみられた。年次をこえた業務の標準化を図っていく必要がある。
		各教科との連携を図り、漢字検定や英語検定など資格取得にチャレンジさせる。 模試分析会を実施して課題を共有し、3年間を見通した学力の向上を目指す。 基礎学力養成のための教材を用い、中学校までの基礎を復習する。	A A B		
	キャリア教育を通して志を立て、主体的に行動できる生徒の育成	社会人講師や企業などによるガイダンス等を積極的に活用する。 原稿なしスピーチを徹底させ、高いコミュニケーション能力を身につけさせる。 先輩や保護者から学ぶなどの講話を実施し、自分の将来のことについて深く考えさせる機会を創出する。 3年間の「産社・協学」を計画的に活用し、キャリア教育の成果を上げる。 長期休業中にオープンキャンパスに参加した際は、レポートを作成させる。	A A A B		
	チャレンジ精神あふれた活気ある生徒の育成	ボランティア活動等の体験的な活動への積極的な参加を促し、生徒自身に主体的な取り組みを実施させることで、生徒の夢や志を深めさせる。 自立と協働を学ぶ体験活動を充実させ、自らの課題に積極的に取り組む力を育む。 体験入部や担任との二者面談を充実させ、部活動加入率80%を目指す。 学校行事において積極的に参加させ、生徒会等学年の神を越えたりリーダーを計画的に育成する。	A A B A		
	年次の課題の向上	進路調整を強化し、年次所属の校務分掌担当者の業務の円滑化を図る。 年次通信を年5回発行し、年次の情報を発信する。	A B		
2年次	家庭学習習慣を確立させ、進路実現を可能にする学力を養成する。	各教科担当者と連携し、家庭学習時間90分の確保を図る。	B	B	1 家庭学習時間の十分な確保ができていない。今後は生徒の進路実現に向けて各教科、HR等を利用して学習指導を行い、家庭学習の充実を図っていく。 2 外部講師や卒業生による講演会等を利用して、学習意欲や上級資格の取得意欲を高め、進路実現を目指す。また、オープンキャンパスやインターンシップで培った知識や経験を活かして、進路意識を高めていく。 3 リーダー育成については不十分であった。次年度は、社会を生き抜くため、自ら行動する力を養成するとともに、部活動や生徒会活動、ボランティア活動等を通して、リーダーとしての行動や意識を高めていく。 4 職員間の共通理解を図ることはできた。次年度は全職員間の共通認識を更に深め、同じベクトルで生徒指導を行っている。また、保護者や教育相談委員会との連携を密にし、情報交換を円滑化して、心身共に健全な生徒の育成を図っていききたい。
		進路強化クラスの授業の充実とともに、各教科担当や外部講師による講演会等により勉強方法を明確にし、進路意識を高める。 進路を見据え、様々な資格取得を目指し補習や個別指導を充実させる。	A B		
	キャリア教育を通して進路意識を高め、自ら考え行動する生徒を育成する。	「課題研究」については組織的に指導体制を確立させ、進路実現に資する内容となるように主体的に取り組ませる。 進路意識を向上させるために、就職希望者に対して「インターンシップ」を実施し、進学希望者に対しては、学校説明会に参加させるなどの取り組みを行う。 外部講師や卒業生による「講演会」や「進路相談会」を実施し、主体的に進路研究を行い、進路を明確にする。	A A B		
	中核年次としての意識を向上させ、リーダーを育成する。	生徒会や部活動においてリーダーシップを発揮できる生徒を育成する。 体育大会・文化祭・修学旅行等の学校行事に主体的に取り組む、企画力や運営力を身につけさせる。 年間5回のボランティア活動への参加を促し、地域への理解を深め、社会性やコミュニケーション能力を身につけさせる。	B A B		
	課題を高め、保護者や地域社会との連携を深める。	職員間の共通理解のもと、清掃・挨拶・頭髪服装等のマナー指導の徹底を図る。 職員間で生徒に関する情報を共有するとともに、保護者と連携し生徒の育成にあたる。 年次通信を年5回発行し、年次の情報を発信し保護者との信頼関係を構築する。	A B A		
3年次	第1希望進路の実現	希望進路を明確にさせ、進路実現に必要なことを自ら考えて実行させる。 進路実現に必要な学力を身につけるために、大学進学希望者の家庭学習時間120分以上を確保させる。 教科と連携して模試対策を計画的に行い、課外や集中勉強会の内容を充実させる。 一般教養の指導として「朝の読書の時間」に新聞の社説等を読ませることで社会に広く興味・関心を持たせ、小論文・面接等に役立てる。	A B B B	B	1 生徒が進路について考え、積極的に行動することができた。今後は安易な進路選択にならないよう指導も必要である。進学を意欲して徐々に学習時間も増えた。一般推薦で学科試験が課される学校も増えているので、学習方法や学習内容について、教科と連携した指導の在り方を検討していききたい。 2 総合的な学習の時間の計画については、グループ分けや内容等について年度当初に十分検討し、さらに内容の充実を図る必要がある。面接の練習では、面接カードが十分に活用できなかった。面接カードをチェックし、各生徒の面接練習状況を把握し、練習が足りない生徒は個別に指導するなどの対応が必要である。小論文は、年次で担当を決めて指導することができた。希望理由書を書かせる学校が増えているので、進路について十分調べたり考えたりさせる指導の充実を図りたい。 3 年次会等で生徒の情報交換を行い、保護者や教育相談委員会等と連携を図りながら、生徒一人一人に応じた指導を行うことができた。今後も継続した指導体制の充実を図りたい。
		総合的な学習の時間を進路に応じた内容となるように計画し、充実させる。 進路検討会を月1回以上実施し、各教科および各分掌との連携を図る。 面接カードを活用した面接指導・小論文指導・希望理由書指導・公務員指導を早期から着手し、計画的・組織的なサポート体制を確立する。	A B B		
	最上級生としての自覚を持ち、後輩の模範となる生徒の育成	服装・挨拶・言葉遣い・掃除の指導を徹底し、社会で活躍し得る人材を育成する。 部活動や学校行事で中心となって行動させ、主体性と行動力を身につけさせる。 生徒会を中心として年次生徒全体が結束し体育大会等の学校行事が成功するように、年次職員が積極的にサポートする。	B A A		
	課題を高め、保護者や地域社会との連携を深める	教師・生徒・保護者を一つの課題と考え、連携を強化する。 年次所属職員を中心とした他分掌との連携を強化する。 年次通信を年3回以上発行し、学校の情報を保護者に発信する。	A B A		
	教育環境の向上を図る。	これまでの履修事項について、継続して検討と要望を行う。 改善が必要な箇所を洗い出し、年次計画により整備を行う。（年1回調査実施）	A A		
専 務	生徒の安全を確保する。	施設安全点検を充実させ、危険箇所は改善を図る。	A	A	1 学校施設・設備の安全を確保し、更なる充実を目指す。 2 就学支援金制度等について保護者、職員への周知を行い、生徒の就学を支援する。
	円滑な事務処理に努め、各教育活動を支援する。	税納金の納入率のアップを図るために、事務室と学年主任及び担任と連携を密に行い、連携して徴収を進める。 就学奨励金制度・就学給付金制度の周知徹底を行う。 定期監査・随時監査・会計指導等の対策を十分にを行う。	A A A		